



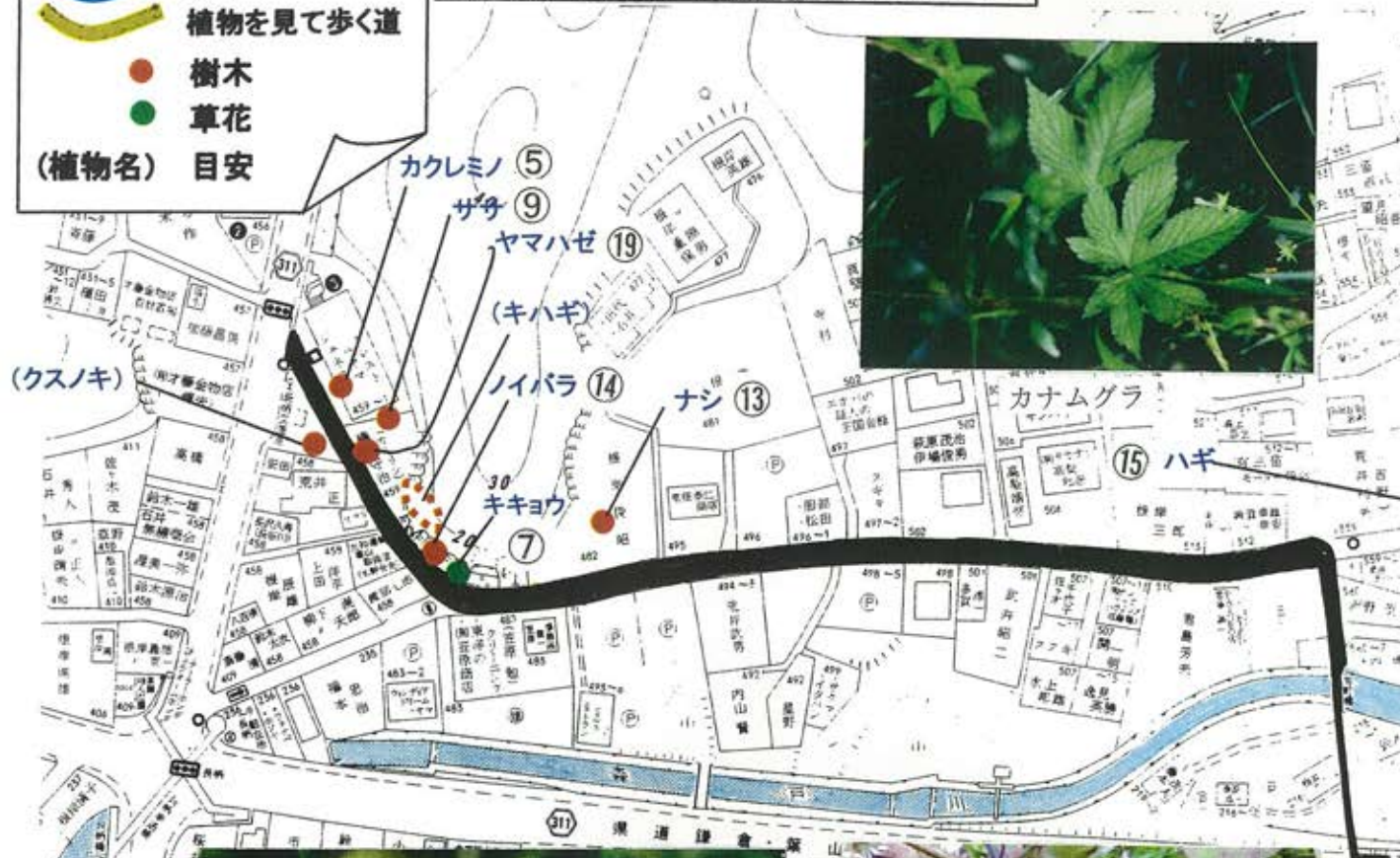


-  森戸川
-  植物を見て歩く道
-  樹木
-  草花
- (植物名) 目安

②~⑳ 「万葉集の植物の歌」の記載ページ



テイカカズラ



ワタ



万葉集の植物の歌

(アイウエオ順) 一 備

考 一

○印は葉山近在に有ると思われる植物 外来種(外) 食用(食) 薬用植物(薬)

現代名

古代名

作者・万葉集 巻 歌番等

アオギリ

古名 ゴトウ

巻五 810

○ 梧桐の日本琴一面 对馬の結石の山の孫枝なり

(長歌の序詞)

(对馬の結石の山の梧桐の薬で作った日本琴一面)

大伴淡等謹状

アオツズラフジ

古名 ツヅラ

(薬)

巻十四 3359

○ 駿河の海 磯部に生ふる 浜つづら 汝を頼み 母に違ひぬ

相聞 駿河の国の歌

(駿河の磯辺の長く伸びるつづらの様に長いこと

あなたを頼りにして母と仲違いをしてみました)

アカガシ・アラカシ

古名 カシ

(食)

巻一 9

○ 莫囂円隣之大相七兄爪謁氣 我が脊子が い立たせりけむ 厳櫃が本

額田王

(上二句の漢字が万葉仮名で未解説・背子は女性が親しい男性を呼ぶ言葉)

アカネ

古名 アカネ

(薬) 巻一 20

○ 茜さす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る

額田王

(紫の栽培してある標の野原を行きながらあなたは袖を

蒲生野の遊胤)

お振りになりますますが野の番人が見るではないですか)(袖振る は愛情表現)